

清水建設株式会社

『子どもたちに誇れるしごとを。』

一つひとつのしごとに情熱を注ぎ、子どもたち、さらにその先の子どもたちの時代に価値ある建造物や事業を築いていく。

今回は、大阪府の「松原市三宅西土地区画整理事業」の一括業務代行者として、新たな拠点開発に貢献した清水建設株式会社をご紹介します。

清水建設の概要

清水建設は、200年以上の歴史を持つ日本の大手総合建設会社として、建築・土木事業に加え、不動産開発事業、エンジニアリング事業、新エネルギー事業、フロンティア事業と多岐にわたる事業を展開しており、グローバルな視点からSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた新たな事業領域にも積極的に取り組んでいます。

清水建設の創業は1804（文化元）年。越中富山の太夫であった初代清水喜助が江戸・神田鍛冶町で開業したことに始まります。初代喜助が創業当時から目指したのは、「誠心誠意、心を込めて仕事に取り組み、良いものをつくって信頼されること」。そして今、清水建設は、お客様、そして社会のニーズに応えるため、常に新しい知識や技術を追究しています。

主な事業内容

◆ 建築事業



オフィス、工場、学校、病院など、多岐にわたる建物の企画提案、設計、施工、運営・維持管理を行っています。

医療・福祉施設の受注高は国内トップを誇るほか、創業者の清水喜助が日光東照宮の修理工事や江戸城西丸造営などを手掛けた由縁から、社寺建築・伝統建築にも多くの実績を持っています。また、自社内に木工事や木工製作を行う東京木工場があるのも特徴です。近年では、生産性向上に向け、ロボット技術を駆使した施工にも挑戦しています。

◆ 土木事業



トンネル、橋梁、ダムや都市土木、エネルギー施設など、土木構造物の設計、施工、リニューアルを行っています。1970（昭和 45）年に日本初の LNG（液化天然ガス）地下タンクを完成させて以降、日本に現存する大型 LNG 地下タンクの約半数は清水建設が施工しています。

また、東京湾アクアライン川崎トンネル浮島南工区、地下鉄大江戸線上広・元浅草工区、ハツ場ダム、東京外かく環状道路本線トンネル（南行）大泉南工事など、難易度の高い工事にチャレンジし、技術力と実績を着実に積み重ねています。

◆ 海外建設事業



1970年代から海外に進出し、約60カ国で施工実績があります。1974（昭和49）年にシンガポールに拠点を構えて以降は、東南アジアを中心に世界各国で、生産施設や超高層ビル、病院、橋、地下鉄などの建設に携わっており、各国の発展と人々の快適な暮らしに貢献しています。

◆ 不動産開発事業



建設事業で蓄積した技術とノウハウを活かし、オフィスビルや物流施設などの不動産開発を行っています。自社ブランドとして、オフィスビルは「アイマークビル」シリーズ、物流施設は「S・LOGi」シリーズを展開中です。2011（平成23）年には不動産開発事業でも海外に進出。東南アジアでコンドミニアムやデータセンター、オフィスビルなどを手掛け、今後は北米にも事業エリアを広げていきます。

◆ エンジニアリング事業



「エネルギー」「環境浄化」「プラント」「情報」という基幹4分野のEPC（設計・調達・建設）事業に注力し、脱炭素社会と安全・安心・健康な生活環境の実現に取り組んでいます。

◆ グリーンエネルギー開発事業



太陽光、バイオマスなどの再生可能エネルギー発電施設の開発や運営を行うとともに、100%出資子会社のスマートエコエナジー株式会社を通じて、CO2「ゼロ」のグリーン電力小売事業などを行っています。自社運営の発電施設や外部から調達した再エネ由来の非化石電力やグリーン電力証書等を組み合わせ、お客様の多様な環境ニーズに合わせたソリューションを提供し、脱炭素社会・カーボンニュートラルの実現に貢献します。

◆ 建物ライフサイクル事業



シミズグループ全体による一貫したソリューションの提供と、今まで蓄積してきた建物に関するノウハウにより、お客様の多様なニーズへ対応し、建物の長寿命化と不動産価値向上を実現します。そして持続可能な社会の実現を目指します。

◆ フロンティア事業



「宇宙開発事業」「海洋開発事業」「自然共生事業」の3つの分野において、早期事業化に向け、取り組んでいます。これらのフロンティア領域における成長投資の継続と、ビジネスモデル確立に向け、挑戦しています。

豊洲スマートシティ

豊洲スマートシティ（東京都江東区）は、2019年5月に国土交通省スマートシティモデル事業において先行モデルプロジェクトに選定されました。同年11月に豊洲エリアにオフィスを置く企業、技術提供企業、大学を会員として「豊洲スマートシティ推進協議会」が設立され、2023年6月には一般社団法人化しました。

清水建設は協議会の代表理事を務め、東京都、江東区や地元組織、スタートアップとも連携しながら、まちの課題解決に向けた取組みを進めています。豊洲エリアは住民やワーカー、来街者など多様なステークホルダーが存在し、地下鉄の延伸など更なるまちの成長を続けています。スマートシティ型先進技術の活用により様々な分野でのサービス・ソリューションの提供を通じて、住民などステークホルダーのニーズ充足と満足度向上、まちの課題解決を図ることで、職・住・遊（ミクストユース）のまちの関係者全ての「QOL」*向上を目指します。

*QOL:「Quality Of Life」の略で、「生活の質」「人生の質」のこと。

■対象エリア概要

- 名称：豊洲エリア
- 面積：約246ha
- 人口：居住約4万人 ※1
就業約4万人 ※2
- ※1：2025年6月時点 ※2：2018年時点
- ビジョン：
 1. 課題解決＋未来志向型スマートシティ
 2. ミクストユース型スマートシティ



■豊洲スマートシティプラットフォーム



■豊洲MiChiの駅



清水建設は、交通結節点・賑わい・情報発信・防災の各機能を備えた日本初の「都市型道の駅」をミチノテラス豊洲に開発。多様な企業とのコラボレーションによる新規サービスの検証・実装に取り組み、スマートシティを身近に体感できる場を創出しています。また交通広場を中心として、多様な交通モビリティのスムーズな乗り換えが可能な交通結節点の機能を持っています。

呉駅交通ターミナル整備事業

広島県呉市では、国土交通省の呉駅交通ターミナル整備事業において清水建設は「E C I 事業者」*に選定され、施設の設計および施工を行っています。まちの魅力とひとの交流をつなぐ、「道・港・駅・まち」が一体となる次世代型総合交通拠点、「交通まちづくりとスマートシティの発信拠点」となる交通ターミナルを目指しています。

※E C I 事業者：設計段階から発注者や設計者に協力し、技術的な知見を提供する施工者のこと。



交通ターミナルのイメージ図

■4つの主要機能

○交通ターミナル

- ・多様な交通モードをつなぐモビリティハブ
- ・アーバンデザインセンターと連携した待合空間

○デッキ(駅前広場)

- ・隣の複合施設と連携した賑わい空間を創出
- ・歩行者動線を導入し自動車との輻輳を解消

○防災拠点

- ・災害時は「防災と交通の拠点」として機能
- ・複合施設と連携した避難場所、情報提供

○次世代モビリティネットワーク

- ・自動運転化への対応や次世代モビリティの拠点として運用

九州大学箱崎キャンパス跡地計画

福岡県福岡市での「九州大学箱崎キャンパス跡地地区土地利用事業者募集」において、清水建設は住友商事を代表とする構成員の1社として優先交渉権者に決定しました。まちづくりのコンセプトは「HAKOZAKI Green Innovation Campus」であり、福岡市が推進する「FUKUOKA Smart EAST」構想をもとにまちづくりに取り組んでいます。千年以上にわたり常に更新されてきた箱崎で、これまでの箱崎や九州大学の歴史を継承し、高質でみどり豊かなまちづくりを進め、新たな価値を提案します。また、新産業を創造・発信していくとともに、環境先進都市として世界を牽引する、未来のまちづくりを実現します。

1. 人生の質を高めるスマートサービスを提供

本エリアでは、少ない電力で高速大容量の通信ができる最先端の通信基盤「I OWN(アイオン)」を活用し、まち全体のデジタルツインを実現した上で、すべてのスマートサービスを統合・連携することで未来のスマートシティを実現させます。

本事業では、まちづくりにおいて、様々な人が新しい価値観を持ち、それぞれに適したライフスタイルを送る環境を作ることが重要と考えています。本エリアのスマートサービスは、生活の質、空間の質、仕事の質それぞれを向上させ、“人生の質”を高めるサービスとなる役割を担います。

2. にぎわいのある高質で快適なまちの実現

本エリア内には約2千戸の分譲住宅、インターナショナルスクールを含む教育機関、企業の研究拠点やオフィスといった多様な都市機能をそろえ、各所で通信アプリやロボット、自動化技術などを用いた最新サービスの提供を目指しています。また、再開発エリアの約4割を緑化することで、みどりで繋がり、創造性と協働を促進する空間を創出します。今後の都市の在り方の先行事例となるような、かつての箱崎のにぎわいを取り戻す、地域に開かれたミクストユースなまちを実現します。



全景



イノベーションコア夜景



ウェルネスストリート

◆ グリーンインフラ+（プラス）

シミズグループは、2021年に環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」を策定し、目指すべき持続可能な社会を「脱炭素」「資源循環」「自然共生」の3つの視点で捉え、豊かな環境価値の創造に取り組むこととしています。

このうち、自然共生については、グリーンインフラ導入により、生物多様性をプラスにし、人と自然との持続可能な共生に貢献していきます。

シミズグループは、グリーンインフラについて、「グリーンインフラ+（プラス）」というコンセプトを掲げ、その推進に取り組んでいます。



SHIMZ Beyond Zero 2050



— 子どもたちに豊かな自然の恵みを。 —

グリーンインフラとは、自然の持つ多様な機能を賢く活用することで様々な社会課題を解決し、持続可能なまち・地域の実現を目指す考え方です。

これまでシミズグループは、「地域に固有の自然生態系を尊重」し、自然環境や生物多様性を保全・回復する技術・ノウハウを培ってきました。人と生き物の暮らしを支える自然生態系はグリーンインフラの基盤です。

グリーンインフラ+とは、自然生態系の保全・回復を強化しつつ、「豊かな自然の恵み」をまち・地域に還元することを重視した理念・実践を総称するコンセプトです。

シミズグループは、人と生き物がいきいきと共生する持続可能な社会の実現に貢献するため、グリーンインフラ+を推進しています。

グリーンインフラ+の事例1

◆ 技術研究所再生の杜ビオトープ（東京都江東区）

第3回グリーンインフラ大賞「優秀賞」・ 第44回緑の都市賞 緑の事業活動部門「国土交通大臣賞」受賞

2006年に清水建設の技術研究所敷地内に整備されたビオトープ。面積は約1,940㎡（うち、池660㎡）。多様な生物が生息し、社外向けの環境教育や各種のイベントに活用されています。「ABINC認証（工場版）」、「江戸のみどり登録緑地（優良緑地）」、「SITES® for Existing Landscapes ゴールド（国内初）」などの緑地の認証を取得。令和5年前期「自然共生サイト」認定。



再生の杜ビオトープ



乳幼児親子向けの自然体験プログラム

グリーンインフラ+の事例 2

ハツ堀のしみず谷津（千葉県富里市）

第4回グリーンインフラ大賞「国土交通大臣賞」・令和6年度土木学会環境賞 受賞
(いずれも他団体と連名で受賞※)

かつて稲作が行われてきた、印旛沼流域の谷津（台地が侵食されてできた小さな谷地形）では、高度経済成長期以降、荒廃や埋立が進行し、生物多様性の劣化や水質浄化機能の低下、豪雨時の水害などの問題が発生していました。

これを受け、産官学民が連携し、新たな技術・視点を導入しながら、月1回の管理作業を行うことにより、谷津を湿地グリーンインフラとして再生しています。

また、環境省より令和6年度前期「自然共生サイト」認定を受けました。



再生活動前の様子



現在の様子



研修を兼ねた管理作業（竹の切り出し）



イベントの開催（写真は稲作体験）

※第4回グリーンインフラ大賞：国立研究開発法人 国立環境研究所、富里市経済環境部環境課、認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン、特定非営利活動法人NPO 富里のホテル、おしどりの里を育む会 と連名で受賞。

令和6年度土木学会環境賞受賞：国立研究開発法人 国立環境研究所、富里市、認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパン、特定非営利活動法人NPO 富里のホテル、おしどりの里を育む会、谷津みらいの会、日本大学 と連名。

グリーンインフラ+の事例 3

温故創新の森 NOVARE 〈ノヴァーレ〉（東京都江東区）

第37回「日経ニューオフィス賞」経済産業大臣賞・木材利用優良施設等コンクール等 受賞

2024年3月からすべての施設が運用を開始した清水建設のイノベーションの拠点。みどりの連続性を確保し、地域性の在来種を中心に植栽するなど、大規模なみどりを整備したほか、グリーンインフラに関するイベントなどに活用。SEGES都市のオアシス認定のほか、これまで4事例しか取得していないABINC ADVANCE認証（江東区と連名）といった緑地認証を取得しています。



NOVARE 全景



グリーンインフラに関するイベント
(グリーンインフラ地域共創に関するオープン研究会)